

ツバキ菌核病に注意！



ちょうど現在開花中のツバキですが、画像のように褐変していることはありませんか？ 白花の褐変被害は特に目立ちます。

観光地で有名な「椿寺」があるように、ツバキの花は美しいまま落花するものです。褐変した落花はもちろん、樹上にある時から褐変しているものも、この病気に罹っています。本病は花だけに発生します。花蕾や開花中の花弁に感染し、褐変して早期に落下します。

このような症状がみられる株元周囲の地面をみると、径1cm前後、杯状のキノコ（子のう盤）が発生しています。これに刺激を与えると煙状に胞子を飛散します。



病原菌は、糸状菌で子のう菌類に属します。罹病落花のガクの中に菌核を形成して越冬し、2月頃ツバキの開花時期に合わせ、菌核から杯状のキノコ（子のう盤）を生じます。冬に発生する珍しいキノコです。

したがって、落花した罹病花を放置すると、翌年の伝染源になります。

公園などで、落花等を株元に掃き寄せていることがありますが、これは病原菌を接種しているようなもので、やめましょう。

